



社団法人日本酪農乳業協会『生乳及び牛乳乳製品の需給見通し』より

生乳生産量

北海道では引続き前年度を上回って推移し、都府県においては11月以降前年をやや下回ると見込まれることから、全国では前年度と同程度かやや下回る程度で推移すると予測しています。24年度における年度計は、北海道3,934千トン(前年比101.0%)、都府県3,669千トン(前年比100.8%)、全国7,602千トン(100.9%)

(単位:千トン、%は前年比)※以下同様

	上期		下期		年度計		閏年修正後	
	千トン	%	千トン	%	千トン	%	千トン	%
北海道	1,986	101.5%	1,948	100.6%	3,934	101.0%	3,934	101.3%
都道府県	1,855	103.3%	1,814	98.3%	3,669	100.8%	3,669	101.1%
全国	3,841	102.4%	3,762	99.5%	7,602	100.9%	7,602	101.2%

牛乳類(牛乳・加工乳・成分調整牛乳・乳飲料)は年度計で前年比98.9%、発酵乳は下期伸び率が鈍化すると見込まれていますが引続き好調に推移すると予想しています。

	上期		下期		年度計		閏年修正後	
	千トン	%	千トン	%	千トン	%	千トン	%
牛乳類	2,536	98.7%	2,365	99.1%	4,901	98.9%	4,901	99.1%
牛乳	1,557	98.9%	1,499	99.2%	3,056	99.0%	3,056	99.3%
加工乳	72	71.5%	66	74.2%	138	72.8%	138	73.0%
成分調整牛乳	192	95.8%	170	93.0%	362	94.4%	362	94.7%
乳飲料	714	103.1%	630	104.4%	1,344	103.7%	1,344	103.9%
発酵乳	514	116.0%	469	103.6%	983	109.7%	983	110.1%

用途別処理量

上期、生乳供給量は前年を上回ったが牛乳等処理量が前年を下回ったため、乳製品向け処理量は前年比107.5%となりました。下期、生乳供給量は前年を下回ると見込まれるものの、乳製品向け処理量は前年並みと予想しています。

	上期		下期		年度計		閏年修正後	
	千トン	%	千トン	%	千トン	%	千トン	%
生乳供給量	3,811	102.5%	3,733	99.5%	7,544	101.0%	7,544	101.3%
牛乳等向け	2,072	98.6%	1,958	98.8%	4,030	98.7%	4,030	99.0%
乳製品向け	1,739	107.5%	1,775	100.3%	3,515	103.8%	3,515	104.1%

主要乳製品製造

脱脂粉乳は、23年度末47.6千トンの在庫は24年度末に41.4千トン(3.4ヶ月)まで減少すると見込まれています。

バターは7.4千トンのカレント輸入に加え、前年度に引続き追加輸入が2千トン実施されたことから、年度末在庫量は前年を上回る水準と見込まれています。国内のバター生産は家庭用カルトンバター、業務用ポンドバターが中心に行なわれ一時的逼迫感は薄れましたが、業務用バラバター(20kg等)の在庫積み増しには未だ至っていないようです。

	脱脂粉乳				在庫月数		バター				在庫月数	
	上期	下期	年度計	%			上期	下期	年度計	%		
生産量	65.0	105.4%	70.2	95.8%	135.2	100.2%	33.5	116.5%	35.8	104.3%	69.3	109.9%
輸入売渡							7.2		2.3		9.4	
消費量	72.9	94.1%	68.5	99.9%	141.4	96.8%	37.5	97.4%	38.1	96.1%	75.6	96.7%
過不足	-7.9		1.7		-6.2		3.2		-0.1		3.1	
月末在庫	39.7	92.6%	41.4	87.0%	41.4	87.0%	22.3	109.4%	22.2	116.2%	22.2	116.2%

25年度の農畜産業振興機構によるカレント輸入売渡

脱脂粉乳の在庫は引続き減少し、生産量から消費量を差引いた過不足はマイナス6.2千トンと見込まれています。無脂乳固形分を必要とする発酵乳の生産も好調なことから、機構は夏の飲用需要期に向けて、脱脂粉乳需給がタイトになる事を予想し24年度内に5千トンの輸入入札を行ないません。同時にホエイ・調製ホエイ3千トンの輸入入札も行ないません。バターの過不足は輸入9.4千トンを差引くとマイナス6.3千トンであり、引続き一定量の輸入が予想されます。

